

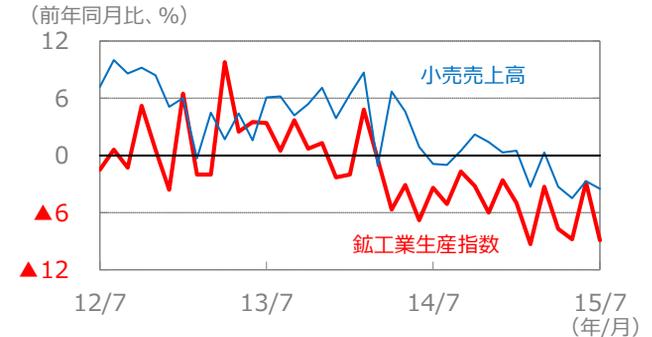
## 今日のトピック 最近の指標から見るブラジル経済（2015年9月）

# 中銀は物価抑制に向け通貨安定化策を再開

### ポイント1 消費と生産が依然低迷 内需、外需ともに弱い状況

- 7月の実質小売売上高は前年同月比▲3.5%、同月の鉱工業生産指数は同▲8.9%と、ともに前月からマイナス幅が拡大しました。
- 物価高による実質所得の減少（7月は同▲3.5%）、ブラジル中央銀行（以下、中銀）の利上げ、輸出の不振（8月は同▲24.3%）などから、景気は低迷が続いています。

【鉱工業生産指数と小売売上高】



(注) データは2012年7月～2015年7月。  
(出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

### ポイント2 利上げは打ち止め レアル安で物価高懸念は根強い

- 中銀は、政策金利を7月29日の会合で0.50%引き上げ14.25%とし、9月2日の前回会合では据え置きとしました。中銀は、物価を2016年末に目標（年+4.5%）に落ち着かせるためには、現行の金融政策を十分に長期にわたり維持する政策が適切と考えています。
- 9月前半の消費者物価指数は、前年同月比+9.57%と高止まりました。政情不安、財政不安、相次ぐ国債の格下げ、などからブラジルレアルが大きく下落しており、通貨安の影響から物価高が長引く懸念が根強い状況です。

【消費者物価指数と政策金利】



(注) 政策金利は2009年9月1日～2015年9月24日。  
消費者物価指数は2009年9月～2015年9月（2015年9月は月前半）。物価予想は、中銀が9月21日に発表した市場予想。  
(出所) Bloomberg L.P.、ブラジル中央銀行のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

## 今後の展開 財政再建への信任と中銀の通貨政策がレアル安定化のカギ

- 23日、中銀は、4月以降中止していた通貨スワップ取引の新規入札を再開しました。24日は、同取引が連日で実施されたことから、中銀が通貨安定化に乗り出したとの見方が強まり、レアルは対円で大きく上昇（前日比+5.4%）しました。
- 景気低迷が長引くなか、野党からルセフ大統領の罷免を模索する動きが出るなど、政治的不透明感も強まっています。大統領は財政再建を続ける姿勢であり、政府への信任と中銀の通貨政策がレアル安定化のカギとなりそうです。

ここもチェック! 2015年 9月15日 財政再建の本格化でブラジルレアルは持ち直しへ  
2015年 9月10日 「財政再建」は正念場（ブラジル）

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。